

石巻市産業振興計画(案)パブリックコメント結果について

No.	項目	意見	石巻市の考え方
1	「施策1 賑わいと活気にあふれる商工業の振興」について	「石巻ブランド」の付加価値の向上に関し、石巻には創業100年企業(代々続く農家や漁師含め)が多くあると思う。商工会や農協、漁協、各種協同組合、地域商店街等と協力し、経営や物作り、農・漁具の開発改良等のノウハウを次世代に伝え活用する取り組みを考える。	本市では、地域資源を活用した商品開発、ブランド力向上及び販路拡大に向け、6次産業化・地産地消推進センターを設置しており、今後も引き続き6次産業化の担い手人材の育成や事業化支援を行い、地場産業の振興に努めてまいります。 また、石巻食品輸出振興協議会により、主要輸出対象国における石巻食品の販路拡大を支援しているところであり、これに関連して「石巻ブランド」の付加価値向上のため、事業者に対する支援に努めております。 担い手の確保・育成も重要であり、産業振興計画(案)内にも新たな担い手の確保・育成に関する事業を掲載しておりますが、御意見につきまして、関係機関等と共有し、具体的な取組みを推進・検討する際の参考とさせていただきます。
2	施策1:賑わいと活気にあふれる商工業の振興 「(2) 就業環境の充実を図る」について	「P65(2)アンケート結果、イ)「非就労者」の今後の意向について」にある様に「非就労者」は全体の11.9%、その内「身内の世話や介護に専念したいから」といった理由で、24.8%の人が職に就けずにいる。職業にマッチングしない理由の一つに会社が負担する社会保障や雇用保険の問題があると思う。労働者は福利厚生の手厚い会社を求め、会社は出来るだけ負担をかけないで済む条件での雇用形態を望む。身内の世話や介護の合間に出来る仕事となると、比較的時間帯の融通が利く非正規雇用となるため、賃金面で妥協せざるを得ない。一方、社会保障や福利厚生は正規社員並みに希望したいと考えていると思う。 雇用保険や健康保険への加入以外にも厚生年金や退職金制度等社会保障の充実が必要と思います。企業への支援拡充を行い、制度の確立を国へ働きかける等の対策を行う。	企業への支援拡充を含め、必要に応じて国への働きかけを行ってまいります。
3	施策1:賑わいと活気にあふれる商工業の振興 「(4)中心市街地活性化を推進する」について	提案1 「石巻マンガロード」のカラー舗装と、足元灯の設置 提案2 街中緑化公園の整備 復旧工事が進むにつれて木陰が失われつつあると感じる。緑化公園の木々は、日差しを遮り、風を通りに導く。買い物客や子連れの母子の憩いの場となり、また子供たちの遊び場になります。商店街の中心に人が集まる場を作ることによって活気が生まれます。(案として立町と中央商店街の中間に位置する現在空き地となっている旧商工会議所跡地を地権者から借り受け仮設の緑化公園として市民に開放することは実現不可能だろうか？中心市街地に空き地があるのは、寂しい限りです。)	「石巻マンガロード」のカラー塗装は、宮城県が穀町大通り(398号線)の歩道について、中心市街地と連続性のある、景観に配慮した歩道として整備を推進することとなっています。 また、足元灯や街路灯につきましては、市管理以外に各商店街で管理しているものもありますことから、御意見につきましては、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきます。 なお、公園整備につきましては、現在、中瀬地区に震災復興のシンボルとなる中瀬公園の整備を進めているほか、かわまち交流拠点整備事業の一環として、市民の憩いの場となる交流広場の整備を進めておりますので、御意見につきましては、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきます。

石巻市産業振興計画(案)パブリックコメント結果について

No.	項目	意見	石巻市の考え方
4	<p>「施策2 持続可能な漁業、水産加工業の振興」について 「施策3 魅力的な農林畜産業の振興」について 「施策4 地域資源を生かした観光事業の振興」について</p>	<p>1) 課題提案 旬の魚を視覚と味覚で味わえる『観光市場』の開設 施策の展開 P44(④観光の状況 工)市民の観光に関する意識について 表)石巻の何をお勧めしますか”のアンケート結果にあるように、食部門の1位に『海の幸』と答えている。『魚といえば石巻』とわざわざ訪ねてきた人が魚を食べる場所が少ないと“ガッカリ”したと言った話を聞いたことがある。震災前は魚市場の前に観光市場があり、旬の魚を眺めながら買い物できた。また味わうことが出来た。 震災から10年。東洋一の市場を中心にそろそろ観光施設の整備を始める段階にあると思います。塩釜のような大規模な施設は無理としても、市場から直送される旬の魚を扱う観光市場的な施設を整備する。 震災後多くの鮮魚店が閉店している。その目利き職人の協力は得られれば観光市場的な施設が作れるのではないかと。 ※市営が難しく民間による『いしのまき元気いちば』をオープンしたと思います。しかし物産展の一部で魚を取り扱っているにすぎず一般の考える観光市場とは少々異なります。</p> <p>2) 課題提案 子供たちが気軽に遊べる裏山(里山)の整備及び1次産業への理解を深める学校教育の充実 施策の展開 食育、木育、農業・漁業体験教育等を通じ、郷土の基幹産業である1次産業への理解を深める総合学習を必須項目にする。</p>	<p>本市といたしましても、新鮮な海の幸をPRしながら観光につなげていくことは重要な課題と認識しております。 現在、魚市場に併設した施設である、水産総合振興センター内に新鮮な海の幸をメインとした食堂が入居しておりますほか、いしのまき元気いちば2階に石巻の食を味わえるフードコーナーが設けられております。 観光市場的な施設につきましては、新たな計画はございませんが、市内の飲食店と連携したイベント等で本市自慢の海の幸をPRしてまいります。</p> <p>将来、子どもたちが地域に残り、第1次産業の新たな担い手として定着していくためには、幼少期から様々な体験や教育(食育を含む)、関連するイベントに参加していただくことが大変重要であると考えております。 御意見につきましては、関係課と共有し、具体的な取組みを推進・検討する際の参考とさせていただきます。</p>
5	<p>施策3 魅力的な農林畜産業の振興 「(3)豊かで身近な森林を再生する」について</p>	<p>1) 課題提案 県産材の利用促進 施策の展開 公共機関の施設の建設やリフォームに積極的に木材の利用をする。壁板や床板の一部の補修を繰り返すことで長期間使用が可能になる。小規模な補修は、地元大工でも対応可能と考えられる。地産地消を公的機関から実践する。</p> <p>2) 課題提案 学校の裏山林の活用 施策の展開 学校に隣接する里山を利用し課外授業や自由学習、遠足、避難訓練等、気軽に立ち入られる身近な里山を整備する。市有地、県有地、私有地難しい問題ではあるが、所有者や地域住民の協力を得ながら行う。教育が発展の礎と思います。</p>	<p>県産材の利用促進につきましては、現在、宮城県が実施しております県産材を使った新築及びリフォーム費用の助成制度を周知してまいりますとともに、公共施設整備におきましても、CLT材等の新たな県産材需要の創出に向け関係課に利用促進を働きかけてまいりたいと考えております。 また、学校の裏山林の活用につきましては、学校周辺の自然環境がとても重要な条件となりますが、地域の方々や支援団体、学校等の要望に沿えるよう努めてまいります。</p>
6	<p>施策4 地域資源を生かした観光事業の振興 「(2)観光振興体制を構築する」について</p>	<p>1) 課題提案 施設間同士をつなぎ他地域との連携を図る。 施策の展開 マンガ館であればマンガ館-石ノ森生家(登米市)と、サンファン間であればサンファン間-月浦-呉壺(雄勝)-政宗歴史館(松島町)という感じで互いにシャトルバスを運行し施設(地域)間を結び時代背景や歴史をデザインした観光を他地域連携して行う。</p> <p>2) 課題提案 JRの協力を得て季節列車の運行 施策の展開 JR石巻線に定期的(春号、夏号、秋号、冬号、川開き号等)にSLの運行。工業港臨海線でのJR貨物への乗車ツアーの計画</p> <p>3) 課題提案 既存JR駅周遊バスによる地域観光促進 施策の展開 石巻駅以外の既存JR駅発着のコミュニティーバスを周遊運航し、地域観光の促進を図る。</p>	<p>御意見につきましては、関係機関等と共有し、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきます。</p>

石巻市産業振興計画(案)パブリックコメント結果について

No.	項目	意見	石巻市の考え方
7	プロジェクト施策1 「交流人口・関係人口拡大プロジェクト」について	<p>1) 『石巻のランドマーク』を作る。 場所や建物で市民が自慢し、愛着を持ち、よりどころとする場所や建物を考え作る。</p> <p>2) 雄勝硯石同様、稲井石の保存も重要と考えます。</p>	<p>御意見につきましては、関係機関等と共有し、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきます。</p> <p>「稲井石」につきましては、歴史上も重要であるものと認識しておりますが、伝統工芸としての認知度や採石状況、活用状況等を踏まえ総合的に判断してまいりたいと考えております。</p>
8	プロジェクト施策3 「強い農林水産業創造プロジェクト」について	<p>1) 1次産業に関しては、食料問題に直結する重要課題と思う。現在の異常とも言える気候変動による不安定な収穫の現状は、今後も続くと考えられる。省力化と機械化により大規模化を進めたあまり、細かな気候変動に対応できなくなっているのではないかと思う。大規模で大きく稼ぐ企業化は必要だが、小さな地域産業として地域野菜を作り、また、ここでしか獲れない珍しい魚を地元料理店で味わうことが出来る、小さいながらも地元に着した活動をする生産者へのハード面・ソフト面での支援の強化が必要と思う。</p> <p>2) 『石巻北高』への『林業科』の新設を提案 早い段階から1次産業へのかかわりを持ってもらう。生活と密接する“食”を生む大切な産業に携わる事に誇りを持ってもらう。教育を通して次世代の人材を育成する。 農業＝『石巻北高』、水産＝『宮城水産』、商業＝『石巻商業』と専門教育機関がある。しかし林業の専門教育機関がない。県内には柴田農林高校の1校のみ(小牛田農林は閉科)しかなく、専門教育機関の無い産業に発展は考えにくい。震災後石巻北高と宮城水産とのかかわりがあり、農・水に“林”が加われば日本中でも類を見ない農林水産すべてを兼ね備えた1次産業系の教育機関が、連携という形ではあるが完成する。『石巻北高』への『林業科』の新設を提案する。</p> <p>3) 1次産業やもの作り企業の衰退の一因として需要の減少もあるが、家業を継ぐことへの親からの反対も相当にある。『この仕事はきつい、つらい、儲からない』等、毎日聞かされれば嫌になり、家業に対して愛着は生まれにくい。『これは良い物だ』と自慢し作り続け、代々受け継がれる産業や企業にするための市場開拓も行政の役割と考える。</p>	<p>市内飲食店、学校給食などでの地元食材の活用を推進することで、本市の食文化を次世代に伝承してまいりますほか、これまで廃棄されていた未利用魚の有効利用に向けた取組等を進めております。 これらの取組を通じて、生産者への支援に繋げてまいりたいと考えております。</p> <p>宮城県では来年度から開校する「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」において、県内の市町村と協力し、林業の成長をけん引する担い手の育成に努めていくこととなっております。カレッジでは、林業未就業者を対象とした技術者養成コースを計画しておりますので、本市におきましても当該研修による担い手育成の成果が得られるよう努めてまいりますとともに、県立高校への林業専門科新設への需要を注視してまいります。</p> <p>本市といたしましても市場開拓・販路開拓は重要であると考えており、産業振興計画(案)内にも、新たな販路開拓の支援に関する事業を掲載しております。(プロジェクト施策3に記載の事業のほか、P81「事業者マッチング事業」など。) その他、事業者の抱える経営や研究開発等の課題につきましても、公設試験機関や産業支援機関との連携により、支援に努めてまいります。</p>